

# “飛行機”

## 夢をふくらませ、さあ出発

医療法人山村歯科医院院長

山村 昌康

「明日何時の“飛行機”だっけ」「海外やから2時間前に着かないといけないね」さあこれからがまた大変、旅行の用意は出発ぎりぎりまで終わらず、出発できると思えばバッグが閉まらず、バッグの上に乗つたりして必死に何とか閉める。「行くよ」との掛け声で玄関に、「あっ、バスポートどこだっけ」「うそさっき机の上にあつたやん」各々の心が自己的に。でも飛行機に到着する頃には、気分は最高潮。「どの飛行機かな?よくこんな鉄の塊飛ぶよね。理屈ではわかるけどやっぱりすごい」「お休み長いからたくさんの人やね」チェックインまでだいぶ時間がかかりそう。やれやれこれで税関通ればもう海外。でもおなかすいた。少しガマン、乗れば軽食出るから。

えーそれまでもたない。ここにいる人の表情は色々やね。あの人はスキーに、心がすでに滑っている、あちらの人はサーファーかな、足の動きがそうやもん、すごいスース着こなしで、商社マンかな、プロジェクトの商談に行くのかな。“飛行機”は心も体も夢多く運ぶよね。「ここ搭乗口、一人ずつチケット持つて」「席は、ここここ」「窓側がいいな」「それではジャンケン。他のお客さんの邪魔にならないよう」「もう飛ぶよ、シートベルトしつかり閉めて」「忘れてた飴たべるの、耳痛くなるから頂戴」オ一舞い上がった。「早く雲の中超えてきれいな空みたいな、揺れるゆれる」「大丈夫飛行機は安心だから、ジェットコースターみたいで楽しいやん」マジそれはない。「見て空きれい」「きたきた飲み物が」「ビデオ何ある?凄い最新作、これ見ようっと。“飛行機”楽しいよね」一方お父さんは機中でしきりに時差の事が気になり、引いたり、足したり、現地時間と日本時間をうまくマッチングすることができる。飛行機に乗ると普段考えないような事を想像する。例えば夕食のお刺身を見て、こんなにたくさん魚を捕るといふ。世界中にビル群が建設され、このままで酸素がなくなるんじゃないかと思うが、シベリアの針葉樹タイガを見ると、作つてるとくつてる酸素を。と安堵する。特に、石油はどれだけ埋蔵されているのか。中学生時代石油はあと100年でなくなると。でも上空10000m(10km)から遠くを見たとき、この空間の中に石油がびっしり詰まっているとすれば、ガソリンタンクがどれだけあってもなくなりはしないと。そんなことを考えたら、もう到着。「みんな、もう到着するよ」「起きておきて」「もう着いたの、早く遊びたいな」入国審査混んでる。ここは最後の GAM。さて皆様の御旅行は、どのように夢を膨らませ、出かけられるのでしょうか?また教えてくださいね。